



人 那 物 須

那須高生がつくった

義

ま

鑑 3 ち

The people of Nasu



人物 那須 鑑 まち

The people of Nasu

3

栃木県立那須高等学校





人物図鑑3を開いていただき
ありがとうございます

人物図鑑とは、私たち那須高校二年生が
那須近郊で働いている様々な方への
インタビューをまとめた本です

有志で集まった生徒で編集委員会を発足し
コーディネーターさんのアドバイスのもと
今までの内容やデザインを参考にし
新たな人物図鑑を制作しました

今回も様々な方の
仕事内容や行い方
仕事へのやりがい
那須町への想いなどを
お聞きすることができました

一年かけて検討を重ね
皆で作り上げた一冊です
ぜひ読んでみてください

那須高校二年生
編集委員一同





栃木県立那須高等学校 校長 臼井 伸一

Shinichi Usui

る教育活動を積極的に行い「なりたい自分」「目指す大人」を目標に「その他大勢」ではない生徒一人一人が「主役」となる学校生活を送ってもらいたいと考えています。その中の活動のひとつがこの「那須まち人物図鑑」の作成です。

本校は、那須町から多くの支援を受けて、地域資産を活用した教育活動を行っています。リゾート観光科のホテル実習やインターシップはもとより、体育の授業の一環で行っているゴルフ実習やスノボ実習は那須高校ならではの授業になります。体験型授業としては他の地域では行えないカリキュラムであり、これらは那須町や育伸会の支援協力のおかげで円滑な実施がなされています。進路指

導も充実し、進学・就職も頑張っています。令和5年5月に横浜商科大学との高大連携事業が締結され、リゾート観光科の生徒は、本校にいながら大学の教授から講義を受ける事ができ、大学生活を先取しています。そうして本校生が将来、地元の那須地域を支える人材となって活躍してくれることを願っています。

最後になりましたが、改めてこれまで「那須まち人物図鑑3」の発刊にご尽力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。とともに、これからも那須高校の教育活動を見守り、ご指導をいただきたいと切に願っております。

那須高校沿革

昭和24年	栃木県立那須農業高校（現 栃木県立那須拓陽高校）黒田原分校設立
昭和25年	当時の那須村、芦野町、伊王野村、鍋掛村の組合経営に移管
昭和31年	商業科が設置（定員20名）
昭和34年	那須高校として独立誓願を県に行う
昭和35年3月31日	黒田原分校が廃校
昭和35年4月1日	栃木県立那須高等学校が開校
昭和37年	全日制課程に変更 普通科（100名）商業科（50名）農業科（30名）
昭和39年	普通科（150名）商業科（50名）学年4学級編成
昭和49年	普通科1学級増の4クラス（180名）商業科（45名）学年5クラス
平成10年	商業科を廃止しリゾート観光科を設置
令和2年	小規模特例校 リゾート観光科1クラス普通科2クラス 学年3クラス
令和2年	創立60周年式典挙行
令和5年	横浜商科大学との高大連携授業

The people of Nasu

那須まち人物図鑑3 発刊にあたり

生徒一人一人が主役

「那須まち人物図鑑3」を発刊するにあたり、関係していただいた皆様に御礼申し上げます。

この取り組みは「未来を創る高校生地域連携・協働推進事業」の一環で、もともと地域交流の「友達プロジェクト」の副産物であったはずなのですが、回を重ねるごとに「那須高校」「那須まち人物図鑑」と言われるようになりました。うれしい反面それまでのものより良いものを出したいという気持ちが強くなりました。第1版は、初めてということもあり発刊までかなり不安がありました。恐る恐る手探りで作ったことを覚えています。出来上がりを手にし

た時の喜びは忘れられません。第2版は前作の経験から作成側も、取材を受けていただく方々もおおよその見当がつき出来具合を想像しながらリラックスして臨むことが出来たと思います。今回は「国立国会図書館への蔵書となる。」という大ニュースが飛び込み、大喜びしながらも、前作を越えるものになくなくてはならないという思いが強く、かなりのプレッシャーがありました。

第3版も今までご紹介させていただいた方々と同様に那須近郊で活躍されている素敵な大人の方々を紹介することができました。ご紹介した人たちは高校生目線であこがれるのは無理

がないと感じる人々です。そんな選りすぐりの魅力ある方たちをご紹介できることは本当に喜びに堪えません。取材に応じただいたすすべての方々に心より御礼申し上げます。

さて、話しが変わりますが第3期県立学校再編計画の概要が発表されて、那須高校は規模の特例（特例校）としてそれまでの学年3クラスから2クラスへ移行することとなりました。少子高齢化が進む中、那須町の子どもの人口は年々減少していきます。中学生の進学希望が県の中央部へ集中し、県内の多くの学校が統廃合される事となりました。本校の場合は設置クラスがリゾート観光科1クラス、普通科1クラスの計2クラスとなりましたが、この状況を逆手に取りチャンスと捉えて生徒一人一人が主役となりう

02

この本を手にとっていただいた方へ

那須高校二年生編集委員一同

04

那須まち人物図鑑3 発刊にあたり

栃木県立那須高等学校 校長 白井伸一



荒川 朋子 さん

学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校

大森 陽介 さん

那須町役場



岡田 雅俊 さん

那須町教育相談室



小幡 泰章 さん

スタジオ朝



加藤 文子 さん

奏デル盆栽



木野 珠莉亜 さん

ホテルサンパレー那須



君島 奈々 さん

特定非営利活動法人
塩原温泉観光協会

木村 秀一 さん

那須町議会議員



作間 亮哉 さん

那須歴史探訪館



佐々木 清志郎 さん

大森ブランド株式会社



28

洪江 和彦 さん

那須高原
こたろうファーム

30

砂川 徹男 さん

砂川印刷株式会社



32

高橋 明男 さん

那須みふじ幼稚園



34

田代 憲司 さん

那須伊王野カントリークラブ



36

豊田 彩乃 さん

ゲストハウス街音



38

濱野 将行 さん

一般社団法人えんがお



40

平久井 好一 さん

那須町教育委員会



42

山下 三奈 さん

RAKUDA

44

那須まち人物図鑑3 ができるまで

46

那須高校魅力化プロジェクト「高校生の未来も、小規模校も、想像以上。」

那須高校魅力化コーディネーター
佐藤 達夫

47

那須高校の生徒より講師のみなさまへ
〜本当にありがとうございました〜



学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
荒川 朋子 さん
あらかわともこ

アジア学院はこれまで国や自治体からの補助金にできるだけ頼らず、多くの人からの寄付だけで50年間学校を続けてきたので、荒川さんは校長としてその運営形態を継続できるように努力してきました。海外から来る学生の渡航費や学費も寄付で支えられているそうです。他にも荒川さんは、農業や社会問題について勉強し、共に作業する仲間をたくさん増やしてきました。もちろん大変なこともありました。朝夕1時間づつの農作業や調理、学生たちの間で起こる問題の対応や文化や価値観の異なる人たちとじっくり話し合うこともありました。



(相馬 拓磨・室井 穂野香・室井 柊二・鈴木 翔)

知ってもらいたいと話してくれました。そして、農業や料理などを通してアジア学院の皆さんと協力して、一緒に生活をしていきたいと大切なことをたくさん話してくれました。

今回の人物図鑑の活動を通して、インタビューは初めてだったため、とても緊張していましたし、初めて「アジア学院」というものを知ったので分からないことだらけでしたが、荒川さんがとてもフレンドリーな方だったので、スムーズにインタビューすることができました。とてもいい勉強になったと思います。



荒川 朋子さんは、アジア学院で校長先生をしています。

アジア学院は、農村者指導研修プログラム（主にアジア・アフリカ・中南米・太平洋諸国の方々向け）、オープンラーニングプログラム（コミュニティ・平和・フードライフについて学ぶ機会を一般の方々に向けて提供すること）、支援者ネットワーク（学院の使命に共感してくださる世界中の支援者やパートナーの皆様と関係を



築いていくこと）の3つで、共同生活を通じて学べる学院です。

アジア学院が作られたきっかけは、第二次世界大戦で日本軍が被害を与えた国々の農村の復興を願って、そうした地域の貧困や飢餓の問題の解決のために、草の根のリーダーたちに皆が食べることでできる農業を学んでもらって、その地域の人々が活躍できるようにしてもらいたいと思ったからです。



学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢442-1
TEL / 0287-36-3111



HP



Instagram

HP ari.ac.jp
Instagram [asian_rural_institute](https://www.instagram.com/asian_rural_institute)

那須町役場
大森陽介さん
おおもりのようすけ



大 森陽介さんは、那須町に生まれ、現在も那須町に住んでいます。大森さんはなんと、那須中学校、那須高校に通っていた、生粋の那須町民です。

大森さんは、中学校時代には三年間吹奏楽部に所属し、充実した日々を送っていたそうです。那須高校時代には、進学クラスに所属し、勉強に励む毎日を送っていました。那須高校卒業後は進学し、専門学校卒業後に那須町役場に就職しました。

現在は、保健福祉課福祉係で、主に高齢者関係のお仕事に携わっています。具体的には、福祉タクシー料金助成事業や高齢者見守りネットワーク事業、生活保護や人権擁護関係のお仕事をされています。福祉タクシー料金助成事業や高齢者見守り

ネットワーク事業として、高齢者の外出の支援や安心して暮らせるような仕組みの整備をされています。また、私たちは生活保護について、お金を支給するだけだと思っていました。ただ、それだけではなく、自分たちの力で再び生活できるように援助し



目さや誠実さによって、利用者の方々も感謝したくなるのだろうと思います。さらに、那須町についての知識が深まったり、新しい制度や仕事を覚えたりするときにやりがいを感じるそうです。

れているからこそ、そのような魅力と課題を強く感じるのだと思います。

町に活気を

今回のインタビューを通して、那須町は少子高齢化がともに進んでいることを知りました。那須町の行事に積極的に参加するなど、那須町を活気づけるために那須高生としてできることをしたいと思いました。

(安藤唯・平山菜々恵・藤田侑・高久侑晃)

ていく制度だということをインタビューの中で知ることができました。

那須町の知識を深める

大森さんは仕事のやりがいを、高齢者と関わる中で感謝してもらえたことだと話していました。大森さんの真面

そして、大森さんは那須町の良いところを、自然が多く観光地が沢山あるところだと仰っていました。一方で、若者が少ないところと、交通の便の悪さが那須町の課題だと考えているそうです。生まれてからずっと那須町に住んでいて、高齢者に関わる仕事をさ



那須町役場

〒329-3292 栃木県那須郡那須町寺子丙3-13

TEL / 0287-72-6901 (代表)

HP town.nasu.lg.jp



HP



那須町教育相談室
岡田 雅俊 さん
おかだ まことし



那 須町教育相談室に勤めている岡田雅俊さんにインタビューしました。岡田さんが今の那須町教育相談室に務めることとなった経緯は、黒田原中学校（現在の那須中央中学校）に赴任したことがきっかけだそうです。校長を退職してからも、那須町で働いてほしいという当時の町長の期待に応える形で、この那須町にたずさわり続けているのだそうです。

主な仕事は、学習のつまづきなどの学校生活上の困りごとや、保護者達の子育てに関する相談やお悩みをお受けすることだそうです。

仕事をしている中でやりがいを感じる時は、不登校の子たちがやる気を見せてくれた時だそうです。

次に、相談が増える時期、相談者

の年齢層、どういう悩みが多いかという質問をさせて頂きました。相談が増える時期は、連休や長期休みの後だそうです。年齢層としては、小学校一年生から中学三年生、時には卒業生やその保護者の方などからも来るそうです。学生の多くの悩みは学習や進路についてが多いらしく、保護者の方からも子育てに悩みを持つ方々からの相談が来るそうです。岡田さん自身も、様々な年齢層



そうです。そんな失敗をしてしまった時は、好きな音楽を聴いたりピアノを弾いたり、自転車でロングライドを楽しんだりしてストレスにならないようにしているそうです。同僚の助けなども乗り越えるための大きな力になっているそうです。

様々な悩みを抱える子供たちに十分に対応するための時間的余裕がないこと、また、子供たちの学習の進度にも違いがあり、教科書をそのまま教えても理解が難しかったため、独自の教材を準備しなければならなかったが悩んだと話していました。

岡田さんの仕事での失敗談&それを乗り越えた方法も聞かせて頂きました。相談に来た子供たちや保護者の方々の悩みや心配ごとを先取りしてしまい、相談の邪魔をしてしまうことだ



レンジしたりする気持ちを持ってほしいことだそうです。

岡田さんのおかげで那須町の教育相談室の仕事がよくわかりました。不登校になってしまった時期がみんな同じというわけではないので、勉強を教えるのはとても難しいと思いました。また、相談室に行きたくなるように、子供たち自身で目標を立てて活動することで、楽しさややりがいを持たせていてすごいなと思いました。人生の先輩である岡田さんの言っていたこと、若い世代への願いはとても気持ち強く、自分にできることをしていきたいと思いました。

（薄井愛美・前田海希・室越奏斗・薄葉琉翔）



那須町教育相談室

〒329-3215 栃木県那須郡那須町寺子乙 1240-1

TEL / 0287-72-6950





職人さん方と会話しながら建物を作るのだとおっしゃっていました。実際に設計図通りに建物が完成した時の達成感が仕事のモチベーションにも繋がっているとのことでした。逆に苦労したことについて伺いたところ、プロジェクトに関わる人が多いため、その中で意見がバラバ



スタジオ朔 建築士
小幡 泰章 さん
おばた やすあき

小幡泰章さんは、スタジオ朔を運営している建築士です。そんな小幡さんに様々なことをインタビューしました。小幡さんは穏やかな方で、インタビュー中も私たちの質問に簡単な図を用いて真摯に説明してくださいました。

小幡さんは主に設計図の作成を専門とする方で、ご自宅でパソコンを使い設計図を描いているそうです。設計図だけでも完成するまでには一年程かかるとのことでした。

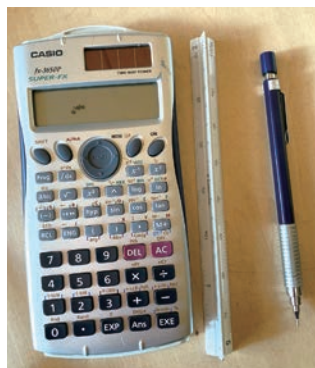
小幡さんが仕事をするうえで意識していることは、関わる人全員が損をしないようにしていることだとおっしゃっていました。建築はお金がかかるため、一つの決断でものすごい大金が動くこともあります。何かを決定するとき



は、その仕事に関わるすべての人たちにとって、どれが最善の策か見極めて客観的に判断しているそうです。

そんな小幡さんが建築士になろうと思ったきっかけは、中学生のころに阿部寛さん主演の「結婚できない男」というドラマを見て憧れを抱いたからだそうです。

次に、小幡さんに仕事のやりがいについて質問したところ、プロの



ラになったときにそれをまとめることだそうです。

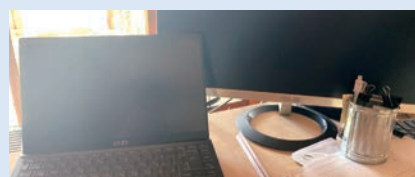
お仕事の話から一転して、都会から那須町に移住してきた小幡さんに那須町の良いところについて聞いてみました。那須町の良いところは、夜に星が見える場所が多いところだそうです。逆に、小幡さんが思う那須町の課題は、高齢化によって若い人が少なくなっていることを挙げていました。

最後に小幡さんが若い世代に伝えたいことをお聞きしたところ、「好き

なように生きてほしい。ただ、好きなことをやるためのプロセスをしっかり考えて大切に。」と、おっしゃっていました。

私たちは今回のインタビューで、同じ建築に関わる仕事でも、現場で実際に作る人だけでなく、設計図を描く人などに分かれていて、建物づくりには私たちが想像していたよりも多くの人達が関わっていたことを知りました。今後の進路選択において、とても良い経験になりました。

(山中夢翔・石川優大・國分志音・後藤大輝)



奏デル盆栽
加藤 文子 さん
かとう ふみこ



加藤文子さんは、埼玉県出身、27年前に那須に引越してきました。加藤さんは、伝統に囚われない自由で自然な盆栽を育てており、「奏デル盆栽」と名付け活動しています。陶芸家で「アトリエあうりんこ」を主宰している夫の小沼寛さんとジョイント展を行ったり、ご自宅の敷地内で、Weekend galleryを開催しています。あうりんことはフィンランド語で太陽を意味します。

また、加藤さん自身の経験を踏まえ、「人と出会うことがないと努力できないため、人と出会うことが大切だ」「10代・20代で出会った人・衝撃を受けた出来事は絶対に忘れないため、興味があることにまず足を踏み入れたら良い」ということを話してくださいました。私達はそのお話の中で、自分の考えを何らかの形で持つことは財産になると話してくださいましたことが印象に残っています。

加藤さんの思う那須町の良い点は自然が美しく、人と人との関係や距離感がちょうど良く、居心地が良いという点です。改善点は、女性の議員さんが少ないため、女性が立ち上げることが重要であり、女性の活躍の場を増やすと良いという点を挙げてくださいました。



わる職業に就いて良かったとおっしゃっていて、理由を伺ったところ、「植物の日に日に変化する姿を見ていると『生きているってこういうこと。』と生命力を感じるから」とのこと。私達は質問に対する加藤さんの返答一つ一つに感心していました。

くなる前に自分の足でヨーロッパを巡っておきたいと思った加藤さんは、19歳の時リノック一つでドイツの友人とヨーロッパを巡ります。外国の方から「日本の何が好きなの?」と聞かれた際、加藤さんは答えられなかったそうです。「日本について考え、話せるようになりたい」と日本に戻りましたが、足が悪いため職に就くことができませんでした。自分(女性)が自分の力で働きたいと思っていた加藤さんは、ご家庭の関係もあり、初めは親の元においてもらい、独学で盆栽家になったそうです。

また、加藤さんは植物に関

私達は、加藤さんのお話で学んだことを学校生活や就職活動などに生かし、就職する意味や学習の大切さなどを再度考え、自分自身でいたいと思うことができるような生活を送っていききたいです。

(猪狩 結杏奈・小田部 玲・佐藤 亜衣・菊池 百恵)

困難を乗り越えた
その先には

加藤さんは、生まれつき足が悪く、将来歩けなくなるかも知れないと医者から言われていました。歩けな



あうりんこ・奏デル盆栽 Weekend gallery

OPEN: 4月~11月の金土日 13:00-17:00

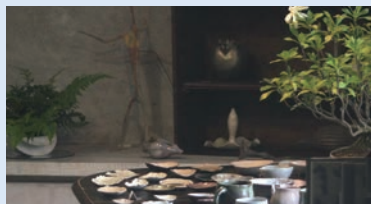
〒325-0304 栃木県那須郡那須町高久甲 5545-25

TEL / 0287-63-7982

HP aurinkonoko.com



HP





ことや工夫したこと、特に頑張ったこともお話ししてくれました。例えば、お店の混み具合や雪の降り具合、お客様におすすめの観光地のことを聞かれたときに困らないために、ホテル近くの観光地のことを調べたり、電話対応の際、一言目で印象が決まってしまうという、国語力を身につけるために先輩がどんな声で、どんなふうに対応をしているのかをメモを取りながら学んでいたそうです。



ホテルサンバレー那須
木野 珠莉亜 さん
きのじゅりあ

那須の良いところは、自然がとても豊かで動物や植物などで四季を感じられるところだとおっしゃっていました。反対に課題は、那須には様々なホテルがあるので、その中でホテルサンバレー那

ホテルサンバレー那須では、若い人たちにも来てもらえるように様々な工夫を行っているとのこと。ミニ縁日やナイトプール、SNS映えをするようなイベントを行っています。実際にこのイベントを行って客足は増加したそうです。



須を選んでもらえるように特色をささなければいけないところだそうです。私たち那須高生を含む若い世代に期待することは、アイデアをたくさん出し、そのアイデアをSNSで発信してアピールをして欲しいとおっしゃっていました。

木野さんは明るく、笑顔あふれる素敵な方でした。今回お話を聞いて、木野さんはお客様のことを第一に考えており、ホテルマンとして素晴らしい方だと思いました。前向きに突き進んでいく木野さんの姿を見て、思いやりを持ちながらも積極的に動けるような人になりたいと思いました。

(佐藤藍莉・高久夕来・及川春人・大竹流音)



木野さんに「ホテルサンバレー那須のどんなところに魅力を感じましたか?」とインタビューしたところ、屋外の温水プールや美術館など、ほかのホテルにはない施設があるところ、そして木野さん自身が臨機

そんな明るく前向きな木野さんがホテルサンバレー那須に就職したきっかけは、中学3年生の修学旅行で行った京都の旅館が素敵だったからだそうです。そこから那須高校のリゾート観光科で接客の基礎を学び、様々な資格をとり努力をしたと仰っていました。きっかけや夢を追いかけるチャンスをつかんで行動にうつせる木野さんのようにになりたいと思いました。

木野さんはなんと私たちと同じ那須高校出身の先輩で、現在はホテルサンバレー那須で働いています。高校の頃はソフトテニス部に入っていて、ボランティアや生徒会を積極的にやっていたとお聞きしました。

応変に対応できるようになりたかったというのも含めてホテルサンバレー那須を選んだそうです。

仕事でのやりがいは、お客様の笑顔や楽しんでいる姿を見ることがそうです。最初はマスク生活ということもあり、木野さん自身も笑顔を作ることには慣れていなかったそうですが、笑顔を作る練習をしたことで、だんだんとレビューで自分のことを書いてもらえるようになったそうです。また、笑顔以外にも練習した



ホテルサンバレー那須

〒325-0392 栃木県那須郡那須町湯本 203

TEL / 0287-76-3800

HP nasu3800.co.jp

Instagram sunvalley_nasu_official



HP



Instagram



国してから、無職期間も経験。その後、たまたま空きの出た現職に就くといった、とても波乱万丈な人生を送ってきました。

現在、塩原温泉観光協会に働いている君島さんですが、現職に就くまでは地元である塩原を観光地として見てこなかったそうです。しかし、観光協会という仕



特定非営利活動法人
塩原温泉観光協会
君島 奈々 さん
さみしまな



事を通して「観光地・塩原温泉」の現状や問題に気づくことになりました。とくに人材の不足による衰退という点を改善したいと思った君島さんは、今この地域に住んでいる人が、塩原での生活を楽しめるきっかけ作りやコミュニティ作りを仕事以外の時間でも行っているそうです。

君島さんのインタビューを通して一番印象に残ったことは、若者の力が欲しいとおっしゃっていたこと

君 島さんは塩原という地域で暮らしています。そこにはスーパーストック、とて焼きなどのたくさんのご当地グルメやいくつもの温泉、塩原溪谷七つの吊り橋、そして季節ごとに様々な景色の見える散策路などの観光スポットがあることで有名です。そんな塩原で塩原温泉観光協会の事務局として君島さんは6年間働いています。また仕事以外でも地域でのコミュニティ作りのために「みんなの蔵TEO」や「シューナカクラブ」



君島さんは今も暮らしている塩原という地域で生まれ育ち、20歳ごろに実家近くの保育園に就職しました。しかし、就職後地元が窮屈に感じて4年で退職し、その後ワーキングホリデーでオーストラリアとニュージーランドに行き海外生活を経験したそうです。20代後半で帰

などのいろいろな団体を立ち上げています。



です。それを聞いて、私たち高校生にできることは塩原のいいところを広めることだと私は思いました。私たちの力なら、SNSなどを使って塩原のいいところを広めることで、少しでも塩原に興味を持ってくれる方たちが増えるのではないのでしょうか。塩原は自然が好きな方や、写真が好きな方、そして観光が好きな方に特におすすめの街です。

私も君島さんのように街のために役立つことを探して自分でも努力したいと思います！是非皆さん塩原に行ってみてください！

(谷田明里・磯澤太郎・石田恵瑠・辺見巴)



特定非営利活動法人
塩原温泉観光協会

〒329-2921 栃木県那須塩原市747
TEL / 0287-32-4000

HP siobara.or.jp
Instagram [shiobara_onsen](https://www.instagram.com/shiobara_onsen)



HP



Instagram



また直すなどのこともしています。もう一つの趣味は、休日にカメラで山野草の写真を撮ることです。

木村さんの那須で好きなところは、豊かな自然を中心に美術館や観光牧場など多くのレジャー施設が点在している那須高原です。その中で那須御用邸は重要な場所だと感じて



那須町議会議員
木村 秀一
さん
きむらしゅういち



いるそうです。那須町の良さは自然が豊かだと思いがあ、優しさがあふれる街とおっしゃっていました。

那須町の課題としては、高齢者にとつての移動手段が少ないことだそうです。対策として、交通手段になる無人バスの運営者を募集することや、ライドシェアリング（自動車の相乗り）の普及を考えていらっしゃいます。その他にも、那須町の魅力を全国に発信し、温泉街や駅周辺の活性化につなげ、移住・定住者を増やすなどの課題に取り組んでいらっしゃいます。

木村秀一さんはこの町で生まれ育った那須町の議員です。町議会の副議長として、開かれた議会を目指しているそうです。また、民生文教常任委員会に所属しており、その委員会では、省エネルギーの推進や那須町放課後児童クラブの運営、男女共同参画についてのなどを調査し取り組んでいます。主にしていることは民生（町民の生活、生計の安定を図る）文教（学問や教育によって人心を導くこと）の通り、よりよい教育など人々の生活の質の向上にかかわることだそうです。この仕事のやりがいは、活動を通じて町が動き、人のためになれることとおっしゃっていました。

木村さんは議員になる前、使い捨てカメラのストロボや中性子測定管の製造会社に勤務されていた

若い世代に期待することは、那須町に残ってもらい農業や観光業などを継いでもらいたいとおっしゃっていました。その他にも、政治に興味を持ってもらいたいそうです。また、具体的になくても夢を持ってもらい、自分を大切にしたいと話していました。今回のインタビューでは、木村秀一さんの那須町に対する熱い思いや、自身の思い出などを、聞かせていただきました。那須町をよくしたい！という思いで働いている木村秀一さんのように私たちも何かに熱心に向き合えるような大人になりたいと思いました。

（佐藤莉愛・新保尚己・村上咲妃・深谷大空）



たそうです。暮らし豊かな町に少しでも貢献できればとの思いで議員を志し、議員になった後は街を見る目が変わったそうです。具体的には、道路やカーブミラー、危険な箇所はないかなど細かいところを気にしたり、他にも政治関連のニュースや国会中継などをよく見たりするように変わったそうです。

木村さんの趣味は二つあり、一つはDIYだそうです。分解して



那須歴史探訪館
作間 亮哉 さん
とくま かつや



那 須町生涯学習課、学芸員の作間亮哉さんにインタビューしました。作間さんは、宮城県仙台市出身で、2019年から那須町役場の那須歴史探訪館で仕事をする中、ボランティアで災害で被災した文化財の保護活動をしています。

歴史探訪館では、那須町の魅力を発信することや、歴史に関する展示だけでなく芦野地区をみんなに知ってもらうための町歩きや地域の歴史についての悩みの解決など、様々なことをしています。

仕事について、地域の新しい歴史を発見することや、古いものを集めて多くの人に知ってもらうこ



ふすまの中の古文書調査

とにやりがいを感じているそうです。ものの保管場所がなかったり、保管が大変だったりと苦労が多いのですが、自分の好きな仕事だから頑張れるとおっしゃっていました。

意識して取り組んでいることは、今の那須町をどのように残し、どのように未来に伝えていくかという事だそうです。具体例として、今は歴史資料として機能してい



小泉 斐「親子鶴図」

なくても、未来では歴史資料になりうる新型コロナウイルス関係のものや、廃校・廃園になった那須町の保育園・中学校の資料などを集めることを意識しているようです。

那須歴史探訪館は来てくれる人が限定的だったり、歴史を遺す役割に対する理解が少ないなどの課題や問題点があるとおっしゃっていました。

作間さんは、高校生などの若い世代に地元のアイデンティティである歴史を学び、那須町の過去と現在を次の世代に伝えてほしいと私たちに話してくれました。

私たちが今回インタビューをして分かったことは、学芸員の人たちは町の人たちと同じくらい地域に思いがあるので、災害



展示の様子

作間さんは好きなことを仕事にしたかったので大学もそれに合わせて選んだと話していました。その話を聞いて私たちは、進路について考えることもできました。好きなことを仕事にして多くの人に歴史を伝えるためにいろいろな団体に所属して活躍していることはすごいと思いました。

皆さんも那須町の歴史について知り、その歴史をこれから伝えていってほしいです。

(相馬昇弥・田代菜・館野璃菜・平山桃果)



那須歴史探訪館

〒329-3443 栃木県那須郡那須町芦野 2893

TEL / 0287-74-7007

HP town.nasu.lg.jp



HP

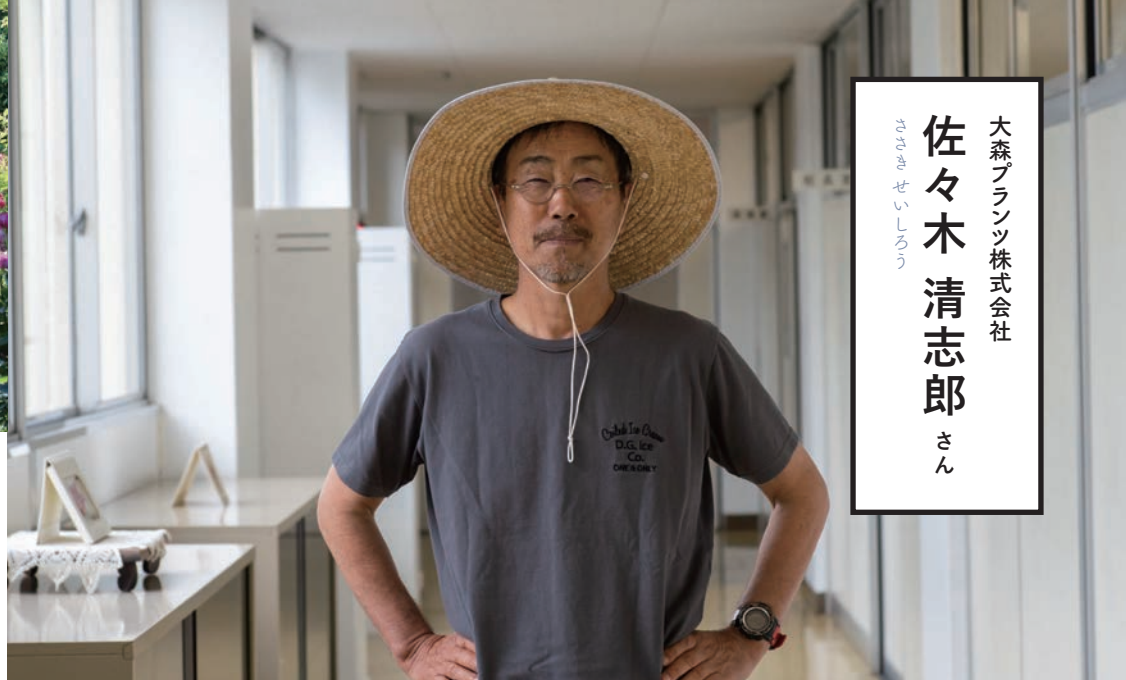


大森プランツ株式会社

佐々木 清志郎

さん

ろろめ せいしろう



佐々木清志郎さんは、大森プランツ株式会社の代表取締役です。大森プランツは主に樹木及び草花の卸売りや造園工事の設計施工などを行っています。那須町では、会社直営店コピスガーデンの園主をなさっています。今回のインタビューでは、コピスガーデンについて、那須町の良いところやこれからの世代に期待することについて伺いました。

コピスガーデンは、2013年に栃木県那須町に佐々木さんによって立ち上げられたガーデンセンターです。コピスガーデンの「コピス」は、英語で、「雑木林」を表しているそうです。バラや宿根草などをメインに植物を販売しており、植物以外にも雑貨ショップやカフェがあり、お客さんに充実した時間と空間を提供しています。

ブランド力をつける

栃木を選んだ理由は、リゾート地であり人通りが多いことや、那須が植物を育てるのに良い環境で、那須はブランド力をつけるのに



那須にコピスガーデンができたきっかけは、元々佐々木さんは福島でコピスガーデンを営んでいましたが、東日本大震災（3.11）の自然災害のせいで営業ができなくなってしまう、栃木に場所を変えて園芸を始めたことだそうです。



うってつけであったため、那須街道に店を構えました。

時間と空間を良くする

佐々木さんにとって花とは、時間と空間を良くする道具であり、コピスガーデンは花ではなく時間と空間を売っており、充実した時間の手伝いをしたいとおっしゃっていました。この仕事をしているのが楽しく1週間があつという間に過ぎていくとおっしゃっていました。

那須町の良いところはいろいろなところで成長できることがたくさんあるところとおっしゃっていました。反対に課題としては、那須街道の改善をお願いしたいそうです。那須の若い世代には那須町をがんばって発展させてほしいとおっしゃっていました。

今回のインタビューを通して私たちは小売業をするうえでブランド力が大切だと感じました。ブランド力をつけるためには、品質はもちろん商品を生



る土地、そしてその環境など様々なところにこだわることが大切だということがわかりました。妥協しないという佐々木さんの園芸に対する強い思いを感じることができ、私たちも何かこだわり抜き妥協したくないと思えるようなものを見つけられるように頑張りたいです。

（佐藤舜大・寺田光太郎・石黒裕豊・仁平康輝）



GREEN&CAFÉ CoppiceGARDEN

〒325-0001 栃木県那須郡那須町高久甲4453-27

TEL / 0287-62-8787

HP coppicegarden.info

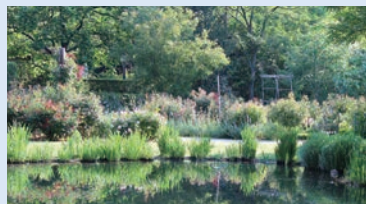
Instagram coppicegarden



HP



Instagram



第二に、農業について学んでいる際に、たまたま研修でお世話になった農家さんがトマトを主に作っている方だったからなのだとおっしゃっていました。

こたろうファームでの仕事は野菜を作るところから提供・販売まで行っています。野菜を管理する仕事は長い時には



那須高原こたろうファーム
渋江 和彦 さん
 しぶえ かずひこ



朝の四時から夜の十一時までかかるそうです。育てた野菜は渋江さんが那須町の各観光施設に提供したり、市場で販売したりしているそうです。

渋江さんがこの仕事をしていてやりがいを感じる瞬間は、農場の野菜を食べて頂いたお客様に「おいしい！」と言ってももらえたときだそうです。

渋江 和彦さんは那須高原で「こたろうファーム」と

いう農場を営んでいます。渋江さんは現在五十七歳で、元々は東京に住んでいましたが、那須の自然にあこがれて移住してきました。渋江さんが営んでいるこの農場ではトマトを中心に育てており、その数は三十種類にも及ぶそうです。他にもドル



**やりたいことを
 やってみよう**

最後に那須高校生に向けて一言聞いてみたところ、「みんながやりたいことをやって、社会に貢献できるように頑張ってほしい。」とおっしゃっていました。

私たちも渋江さんのように自分のやれることを見つけ、真剣に物事に取り組めるような大人になりたいと思いました。是非、こたろうファームの野菜を食べしてみてください。

(鈴木 蒼斗・相馬 尚弥・新井 悠暉・益子 修太)



好きな野菜を育てる

そんな渋江さんに何故トマトをメインで育てているのかを聞いてみました。その理由は二つです。第一に、自分自身がトマトを好きだからで、自分が好きではない野菜を育てるのはモチベーションが上がらないからだそうです。

チエドリームやサンマルツァーノリゼルバという、私たちが知らないような珍しい野菜も育てており、その数は百五十種類以上にも及ぶそうです。



那須高原こたろうファーム

〒325-0303 栃木県那須郡那須町高久乙 3379-59
 TEL / 0287-64-3994

HP kotarofarm.com
 Instagram kotarofarm



HP



Instagram



砂川印刷株式会社
砂川 徹男 さん
すなかわてつお



成されています。その9割は女性だということで、女性が働きやすい環境だということがわかります。印刷所ということで、インクのおいごしたり工場のようなイメージが持たれがちですが、数年前の移設に伴い、内装や外装をおしゃれにしたことで女性でも働きやすい環境になっています。それが砂川社長

砂川 徹男さんは、小・中学校で野球、高校・大学では陸上と、部活動に熱心に取り組んできた真面目な方です。

砂川印刷さんは那須町黒田原に昭和24年に創業し、2023年で75周年を迎えました。現在は地元の活性化に貢献し、プランニングから印刷まで一貫して提供するサービス力と、長年の実績を生かしたデザイン力が砂川印刷さんの強みです。主な仕事の取り扱い内容は、印刷と、その企画及びデザイン、WEBサイトの保守管理、ポスターやパンフレットの発行など、印刷だけでなく多岐にわたっています。

紙の良さを伝える

砂川さんの仕事のやりがいは、紙の良さを人に伝えることと、手が

けた印刷物によってイベントの集客をすることです。お客様と深い関係を持つことで、喜びを共有し、共に考えて受け手の心を動かす製品を提供しています。

砂川印刷所は、11人の方々と構



による雰囲気づくりなのでしょう。また、働いている方々は、印刷の業界が好きかということが求められます。面接の際に砂川さんはそこを重視するそうです。

また、もともと観光関係のお客様が多かったため、コロナウイルス感染症の影響で観光ができなくなり、砂川印刷さんのお仕事は大幅に減少したそうです。それに加え、昨今では紙やチラシよりWEBなどを使用するため、仕事が減ってしまっただけです。ですが、那須高校ではポスターやパンフレット、

生徒会誌やPTAだよりなど、多くの印刷を砂川印刷さんに依頼しています。どの印刷物も趣向が凝らされているので、多くの方におすすめしたいくらいです。

今回インタビューをして、砂川さんに明るく接していただいたのでとても助かりました。砂川さんは那須町の自然が豊かなところが好きだとおっしゃっていました。砂川さんの人を引き付けるデザインを活かして、那須町発展に向けて活躍されることを願っています。

(後藤泰聖・人見優真・益子琉斗・稲垣新)



砂川印刷株式会社

〒329-3215 栃木県那須郡那須町寺子乙 2562-7

TEL / 0287-72-0137

HP sunakawaprint.com

Instagram sunakawaprinting



HP



Instagram



那須みふじ幼稚園
高橋 明男 さん
たかはし あきお



み ふじ幼稚園の園長の高橋明男さんにインタビューしました。高橋さんは、ドイツやイギリス、アメリカの学校に留学した経験を活かして、通訳・翻訳業を中心とする活動をされていますが、以前から学校法人の理事として、理事会のたびに那須に来ており、園長を引き継ぐことになってから、10数年が過ぎるそうです。

みふじ幼稚園はシュタイナー教育という理念があり、幼児たちは「模倣」を通して学んだり遊んだり、異なる年齢の子もたちが一緒に過ごし、家族とは別の兄弟姉妹のような体験をします。また、自発的な運動で運動能力を発達させるなどといった教育を提供しているそうです。

次は、業務内容について説明した



いと思います。先生たちは、出勤したら最初に部屋や廊下などの掃除をします。そしてお互いのスケジュール確認などを行い、子どもたちが登園してくるのを迎え入れます。お昼まで自由あそびの時間があります。室内ではつみきや布など、自然素材の遊具であそび、外では園庭を駆けまわり、ボール遊びや砂遊びなどをします。お昼ご飯になるとみんな



なで手洗いうがいをして席に座りご飯を食べる準備をします。お昼ご飯が終わると帰りの準備をして、メルヘンの話を聞き、バスで帰る人と預かり保育の人に分かれ、帰る時間を待ちます。これが大体の一日の流れです。

そこで自分たちが気になった、園児が喧嘩になった時にどのように対応するのかについて聞いてみました。喧嘩をしてし

まった園児一人一人に喧嘩した理由を聞き、なぜ喧嘩をしてしまったのか、次からはどうすればいいのかを一緒に考え、納得して仲直りできるように対応しているそうです。

みふじ幼稚園の先生になる理想の人材は、普段からニュースや新聞などを通して社会に興味を持ち、物事に客観的な視点を持てる人だそう。また、女性だけでなく、男性も理想の人材だと言っており、他にも子どもが好きな人や、歌や絵が好きな人など、子どもの発達・発育に大きく関わることでできる人も最適な人材と言っていました。

最後に私たち高校生に期待していることは、日本と世界のいろんな問題に関心を向け、新

聞やニュースを確認しつつ、自分の意見を持ち、子どもたちがのびのびと個性を生かして生活できる社会をつくって欲しいとのことでした。

高橋さんは子どものことがとても好きで、色々な子どもたちがより良い生活を送れるように、日々たくさんの方の事を考えていてとてもすごい人だなと感じました。それだけでなく、高橋さんは今、本を書きたいそうです。仕事に対してものすごく真剣に取り組んでいるのがすごいことだと感じました。

(鈴木 藍翔・関谷 凜音・橋本 綾菜・四宮 岬世)



学校法人那須内海学園
那須みふじ幼稚園

〒325-0001 栃木県那須郡那須町高久甲 6394-1

TEL / 0287-62-1350

HP nasu-mifuji.ed.jp

Instagram nasu.mifuji



HP



Instagram

那須伊王野カントリークラブ 田代憲司さん たしろけんじ



なって危なかったというお客様
の対応や、盗まれたトラック
が山で見つかり鍵が無かった
ため修理屋に直してもらった
ことなど、たくさんの方の苦勞が
あったと話していました。

次に那須町の良い所を聞きま
した。那須は自然が豊かで、
アスパラやとちあいかなどの
農作物、お米がおいしいとの
ことです。私たちもぜひ食べ
てみたいです。



その一方、人口が減少してい
て、他県から観光にくるお客
さんはいても、移住者は少な
いという課題もあると話して
いました。

田代さんに那須町の認知度を
何故アップさせようと思った
のかをお聞きしたところ、那
須町が非常に良いところのた
め、たくさんの方に那須を訪
れ、知ってほしいからおっ
しゃっていました。

那 須伊王野カントリークラ
ブで支配人をしている田
代憲司さんに、インタビューを
しました。

那須伊王野カントリークラブで
は、北コース・南コース・東コー
スそれぞれのコースでゴルフを行
うことができ、打球練習やアプ
ロチ練習などもできます。ま
た、プロショップやラウンジで休
憩し浴室で汗を流したりするこ
とができ、ホテルも併設してい
るため、ラウンドの前後に泊ま
ることもできる場所です。

最初に田代さんに仕事のやりが
いについて伺ったところ、ゴルフ
場に来てくださったお客様の笑
顔を見ることに加えて、実際に
ゴルフをプレーしたお客様から
カントリークラブに来て良かつ
たと言っていたことや、思っ

ていただくことが、仕事のやり
がいだとおっしゃっていました。

田代さんが、ゴルフ場の支配人
になって苦労したことをお聞き
しました。まず、着任して1
年後に起きた東日本大震災に
よってお客様が減少してしまっ
たことだとおっしゃっていました。
売り上げが無いことで経営
が成り立たず、資金を回すの
が大変だったそうです。その他
には、木の根につまづきそうに

田代さんが那須高生を含め、若
い人たちに期待することを聞いた
ところ、「まず夢や目標をもって
諦めず努力し、夢をかなえて自
分がやりたいことをやるというこ
とを期待している」とおっしゃっ
ていました。

最後に、普段かかわりのないゴル
フ場の支配人というお仕事さを
されている田代憲司さんにたくさ
んのお話をお聞きし、とても貴重
な経験をするのができ勉強に
なりました。私たちは、夢と目
標を持ち、夢に向かって頑張り
うと思うきっかけとなりました。

(須藤 箕月・藤森 ほん・早川 裕人)



那須伊王野カントリークラブ株式会社

〒329-3436 栃木県那須郡那須町伊王野591

TEL / 0287-75-0211

HP nasuiounocc.co.jp



HP



を大切にしています。客層は、若い方やバックパッカーが多く、様々な場所から来られたお客さん同士の新しい出会いを促すとともに、良い雰囲気づくりなどを心がけているそうです。豊田さんは、このようなお客さんが来てくれると、とてもやりがいを感じるとおっしゃっていました。



ゲストハウス 街音 豊田 彩乃 さん とよだ あやの



若者が集まる施設を

次に、豊田さんに那須地域についてお聞きしました。埼玉県で生まれ育ち、黒磯へ来られた豊田さん。埼玉県とは違い、自然や四季を感じながら、山が近くにあるといった環境的な面と、地元の人々がとてもいきいきしているといった地域性が特徴だとおっしゃっていました。この地域性をいかし、より活性化するために、那須には若い



豊田 (マチネ) という、黒磯

駅近くにある宿泊施設を営んでいます。街音では、初対面の宿泊者同士・宿のスタッフ・地域の人々など、他者と繋がることができます。来てくれたお客さんに町を案内し、お話をして繋がれるとおっしゃっていました。豊田さんご本人が旅行や海外に行った際に体験したこと、感じたことをいかし、日々お客さんを迎えていると思います。

街音でどんなお仕事をしているかお聞きしました。もともとは服屋さんだった場所をリフォームされ、豊田さんは内装にこだわったとおっしゃっていました。仕事内容は、主に掃除、布団の用意、チェックイン、チェックアウト、接客などです。この業務をすべて一人でおこなっています。

人が集まる施設が増えることを望んでいました。

魅力的なものがたくさんある那須では、まだまだ発展することができます。私たちも豊田さんの願いにこたえるべく、人物図鑑で様々な人や那須の良さを発信していけたらと思いました。

今回のインタビューを通して、最初は緊張しましたが、豊田さんが優しく緊張をほぐしてくださいました。とてもインタビューがしやすかったです。沢山のことを教えてください。ありがとうございます。

(人見 那奈・相馬 菜那・野澤 律樹・小室 南)



繋がり大切に

豊田さんは街音を運営していくにあたり、プライベート性の高いホテルや旅館と異なり、共用空間を設けているゲストハウスならではの施設をいかした「繋がり」



ゲストハウス 街音 matinee

〒325-0056 栃木県那須塩原市本町8-1
TEL / 050-6867-3360

HP ghmatinee.com

Instagram ghmatinee



HP



Instagram



一般社団法人えんがお
濱野 将行 さん
はのの ねの さん



大 田原市にある「一般社団法人えんがお」で代表理事を務めている濱野将行さんにインタビューを行いました。濱野さんは栃木県矢板市出身で、大学卒業後は老人保健施設に勤め、地域の高齢者の孤立という現実に直面し、根本的な解決に届く地域の仕組みを作るため、2017年5月「一般社団法人えんがお」を設立しました。

「えんがお」は、高齢者の生活を手助けする事業を中心とし、孤立支援、子どもや若者の支援、障がい者支援、地域づくりなどを通じて、さまざまな社会課題の予防と解消を目指しています。現在の日本の制度では対応できない困りごとを行政と協力しながら解消しています。

グループホームを2棟運営してい



で、利用者の方々は地域の中で役割をもったり、日常的に地域と関わっています。前述にもありますが、高齢者だけでなく子ども・若者の居場所支援、放課後児童クラブ学習支援、フリースクールなど起業意欲のある若者の活動支援もおこなっています。子どもから高齢者まで、そして障がいの有無に関わらずみんながごちゃまぜで関わりあい、空き家・空き



店舗などを活用しながら地域と連携して進めています。

仕事のやりがい、子どもや高齢者の人たちが自分が出た事で喜んでる姿を見ることとおっしゃっていました。また、高齢者の好きなところを聞いたところ、温かく優しいところが好きだということでした。

那須町のいいところは、なりに自然が豊かなことだということ

とでした。現在、那須地域は世界が開発に向かうほど、地域の価値は上がっていています。その価値を地元の人たちが、いかに素敵なことを理解していることが重要なのだと思うと、濱野さんは言います。

「那須高校の生徒は、まずは地元の良さをしっかり知って欲しいです。東京のような街は世界中にあるけど、那須のような地域はあまりないことを、ぜひ大切にしてください。次に、地域とたくさん関わって欲しいです。これは、学校側にもお願いしたいところで、勉強・部活・バイトが忙しい高校生生活で、いかに生徒が地域の人たちと関わっていけるかが重要だと思います。地域のボランティアに参加したり、みんなでそれを探したり、そういう活動も高校の中でぜひやって欲しいで

す。」濱野さんはこのようにおっしゃり、私たちもこれから那須に貢献できるように頑張っていきたいと思いました。

濱野さんはとても話やすく明るい性格の人で、楽しい雰囲気です。インタビューすることができました。今回のインタビューを通じて「えんがお」のことをもっと知りたくなったし、私も濱野さんみたいに子どもから大人まで、様々な人と関わってみたい！と、とても興味が沸きました。

(佐藤 陸・阿部 潤太・菊地 悠太・鈴木 佑征)



一般社団法人えんがお

〒324-0051 栃木県大田原市山の手 1-9-10
TEL / 0287-33-9110

HP engawa-smile.org

engagogram



HP



Instagram



photo by nasu lab. 木下愛貴

教員時代は野球部の顧問だったそうです。野球をやったことがなかったにも関わらず、少しでも子供たちに良い思いをしてほしいと様々な本を読み、勉強したそうです。その結果、平久井さんご自身もどんな夢中になり楽しくなっていたそうで、勉強熱心で生徒愛にあふれる人柄がうかがえます。その後、平久井さんが校長先生をやっていた時、当時の町長から教育長をやった

てみないか？とお誘いが来たそうです。そのお誘いを受け、議会の同意を受け教育長に任命されました。

その他に、那須町の魅力についてもお聞きしました。お聞きした際に平久井さんはすぐに「那須町は人がいい」とおっしゃっていました。平久井さんがコミュニティ・スクールを開いた際に地域の多くの方がボランティアで協力してくれたそうです。生徒がコミュニティ・スクールを通じて地域と関わりを持つことにより、さらに学校や地域が良くなっているかと思いました。

最後に若い世代に期待していることについて伺いました。平久井さんは自分で道を切り拓ける人間になって欲しいとおっしゃっていました。平久井さんご自身も自

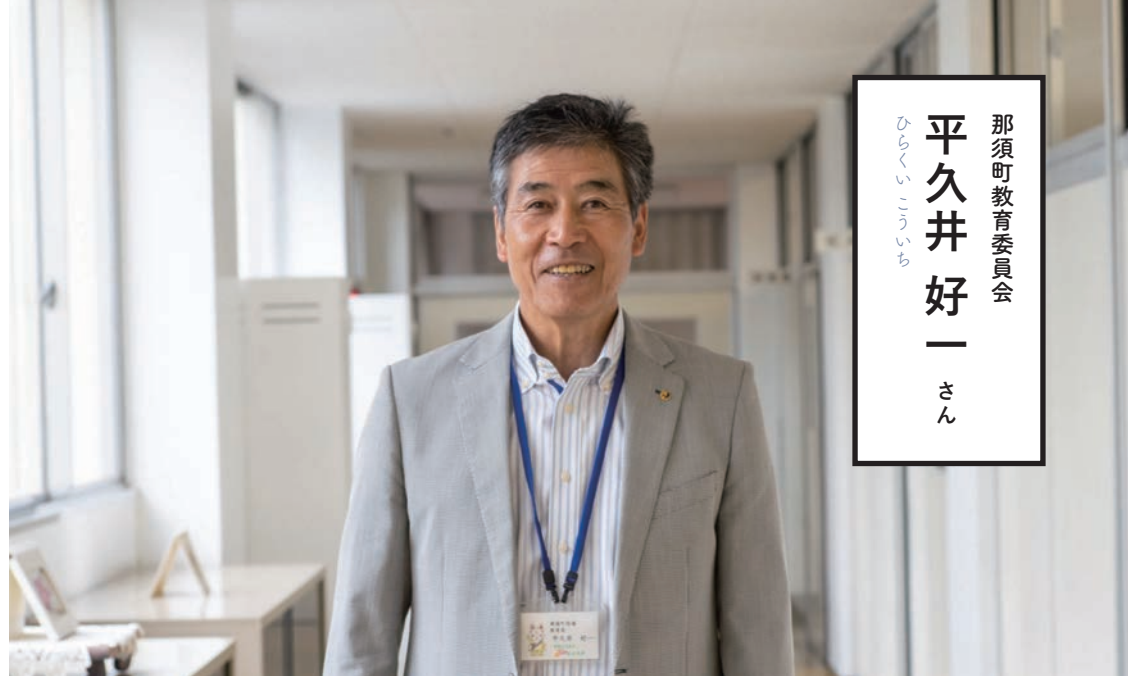


(平沢和晃・室井孝太・佐藤英治・平山琉斗)

分で教員という道を進んだ経験から、他の人に言われてやるのではなく自分の将来を自分で考えて欲しいとおっしゃっていました

那須町教育長の平久井さんにお話を伺い、私たちのために多くのことをしてくださっていることが分かりました。今まで教育長は何をしていくのか分からなかったのですが、今回のインタビューで様々なことが分かったのもとても良い経験になりました。これから平久井さんをはじめ多くの人が私たちのことを支えてくれていることを忘れずに、努力していきたいと思っています。

那須町教育委員会 平久井好一さん



平久井好一さんは平成22年度から那須町の教育長、つまり町の教育行政のトップとして、私たち学生やいろいろな方のために働いています。そんな平久井さんに様々なことをインタビューしました。

まず、平久井さんに仕事について伺いました。平久井さんは自分の仕事を「人づくり」とおっしゃっていました。現在、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、予測困難な時代となっています。そんな時代を主体的にたくましく生き抜いていく力を小中学生に身に付けてもらうべく、今の時代に合った教育を展開



しようと日々努力しています。例えば、教育関連の政策を立てたり、子供の少ない学校を統合したりします。ほかに、コミュニティ・スクールという学校と地域住民が協力して学校運営に取り組む仕組みづくりなど、様々な施策に取り組んでくれています。

次に、平久井さんが教育長に至るまでをお聞きしました。大学時代は家が酪農家ということで海外に酪農関係の実習に行くほど熱心でしたが、中学や高校のころから教員にあこがれており、最終的に教員の道へ進むことを決意しました。



RAKUDA 山下 三奈 さん やました みな



黒 磯で RAKUDA (ラクダ) というパン屋を営んでいる山下三奈さんにインタビューしました。ラクダでは、珍しい天然酵母を使用しパンを作っています。お店の名前は、パンがこつこつしている様子から連想して付けたそうです。

夢をかなえよう

山下さんがパン屋になろうと思った理由は、娘さんから影響を受けたからだそうです。娘さんが夢を決めるときに山下さんに相談したそうです。山下さんはまだ夢を叶えていなかったのですが、娘さんの夢も叶わないと言われてしまいました。そのときに言われた言葉を否定するため、興味があったパン屋になろうと思ったそうです。そして、努力を積み重ねてパ

ン屋になりました。

高校時代、写真部に入部し興味を持ったことがきっかけで、写真に関する大学に進学しました。少し経った後にCGの専門学校にも通い、卒業後はCGの技術を生かしてゲーム会社に就職しました。しかし、栃木に住む母から「介護が大変だから帰ってきてほしい」と言われ、とても悔しく残念な気持ちでしたが、次なる目標ができて頑張る事ができたそ



山下さんが思う仕事のやりがいは、自分のペースで好きなように営業できることだとおっしゃっていました。

山下さんにお店がこれからどうなっていくか聞いたところ、「肉体労働なので細く長く無理せずに続けたい」とおっしゃっていました。

山下さんが思う那須のいいところは、自然が豊かで、那須に魅力を感じて来てくれる人達が多いことや、那須街道がとても綺麗ということ。未来の那須では、移住してくる方と共に那須を盛り上げてほしいと言っていました。

那須高生を含め若い世代に期待していることは、受け身になりすぎないこと、十八歳になると選挙権を得ることができるので

選挙に行ってほしいことだそうです。

自分の可能性を信じて

山下さんにインタビューしてみて、個人営業ならではの良さと、人生は何が起るかわからないということを学びました。「人生は一度きり、若いときは可能性の塊。色々な人と仲良くして相談できる人を作っておく」など人生の先輩ならではのアドバイスがたくさんいただきました。山下さんから頂いたアドバイスをもとにこれからの就職や進学に生かしていきたいです。

(植竹龍星・小口恵叶・吉成颯空・松野薫崇)



RAKUDA

〒325-0056 栃木県那須塩原市本町 2-11

TEL / 0287-63-2986

Instagram rakuda.b



みなさん
仕事にやりがいをも
っていてすごい！



5

インタビュー時のメモを元に、
分担したり、相談しつつ
チームで原稿を書き上げます。

6



絵が上手な人が
多い〜❤️

二学期から編集委員会を発足！
今年のテーマカラーを決めたり、
必要な写真を撮ったり、
似顔絵を集めたり…。
たくさんの作業を分担します。

7

誤字脱字・ズレや空白などがないか、
何度も読んでチェックします。



8

完成!!



たくさんの人に見てもらえると嬉しいです!!

那須まち人物図鑑3が できるまで

1

インタビューしてみたい、
会ってみたい、
話を聞いてみたいと思う、
人物や職種などを調査します



2

生徒が決めた職種や人物、お店などを元に、
インタビューを受けてくださる講師さんを学校とコーディネーターで探します

3



この質問内容で
大丈夫かな〜

決まった講師さんのことを
調べながら、
質問を考え、
シミュレーションします

4

インタビュー本番!!



めっちゃ
緊張した〜

この学校で学んでよかった。

高校は義務教育とは異なり、偏差値や進学率・出願率といったデータに基づいて評価され、進学先や就職先などで位置づけられてきたのが昭和からの慣習です。令和時代となり、そのような評価や過去の固定観念といった価値観は、柔軟に変えていかねばならないと思います。

高校教育において何より大切なのは、そこに通う生徒が卒業の日を迎えて「この学校で学んで、本当によかった。」と実感してくれることだと思っています。教員や地域社会にとっても、これほど喜ばしいことはないと思います。

現在の那須高校は、先生の手厚く丁寧な指導と、生徒一人ひとりに対して熱心に向き合う姿があります。また、総探の授業にも力を入れており、人物図鑑の制作や高大連携の特別授業、インターシップや地域ボランティア活動といった地域社会との関わりを深める機会が豊富にあります。これらの経験は生徒が将来の進路を考える上で貴重なものです。

高校生活は将来について模索する期間であり、進路に悩む生徒も多いです。そのため、学校では様々な授業や体験を用意しています。中でも

「先輩が語る」という授業では、3年生が1・2年生に対して、自身のリアルな経験をもとにしたアドバイスを発表し、資格検定の取得や将来の準備などについて語ります。これは大人が行うよりも刺激的であり、学校の魅力の一つです。

この地域で学んでよかった。

高校の魅力化は、すぐに成果がでるものではありません。生徒が、自分たちの学びを自分たちで創っていくこと、授業や部活動、学校そのものを自分たちの手でより魅力あるものにしていくことこそが、本当の高校の魅力化であると考えます。

生徒自身にとって、学生時代に自分たちで魅力ある学校を創っていく経験や、この人物図鑑のインタビュや地域ボランティア活動を通して出会う地域社会に本気で挑戦するかついい大人たちとの出会いは、今生きている場所とのつながりを実感することに繋がっていきます。

地域社会は超高齢化が進み、課題が山積みですが、高校での実体験が卒業

2学級特例校

2学級での募集開始から3年目以降、入学者が2年連続して募集定員の3分の2未満となった場合は、地元地域とも十分に協議し、原則として、統合などを行い募集を停止します。

後に自分たちが暮らすこの地域を自分たちの手で良くしていくことにも繋がっていくと考えます。生徒や高校が直面する課題を地域と共有し、対話を行いながら、共に悩み、学び、考え、時に寄り添いながら、新たな価値を持続的に創っていく環境こそが重要です。これが今、私たち地域に求められていることだと思います。

那須高校は、栃木県教育委員会の第三期県立高校再編計画の通り、令和6年度入学の1学年生より、普通科・リゾート観光科ともに1クラスずつの、2学級特例校となります。上記は2学級特例校になった場合の再編計画の規定です。これにより名実ともに小規模校となっています。

生徒たちに「この地域で学んでよかった。」と実感してもらうためにも、高校と地域が一体となって、生徒をサポートする意志をもった大人たちとの関わりや機会を創出していくことが必要であると思っています。ご協力、何卒よろしくお願いいたします。

自分の未来も地域の未来も、自分たちで創っていく那須高校へ。

那須高校の生徒より講師のみなさまへ 〈本当にありがとうございました〉

荒川さん アジア学院が農業に貢献していることがわかりました。これから農業の仕事内容をもっと知るよう頑張っていこうと思いました。 大森さん 優しく明るく話をしてくれたおかげで役場のことを知ることができました。 岡田さん 教育相談の仕事がよくわかりました。若者の私たちが選挙に行くなどできることをしていきたいと思いました。 小幡さん 建築士という仕事は何をしているのかがわかりました。ありがとうございました。 加藤さん 「今興味ある事に足をふみこんでみる」「今を大切に作る」といった今の私たちがすべきことの第一歩になるような言葉をいただき、「今のうち」から様々な体験をして、将来にも活かしていけるような大人になりたいとより一層思いました。 木野さん ホテルのフロントの仕事は、那須の観光スポットをたくさん知っておく必要があることがわかりました。 君島さん 那須にはまだまだ魅力があるということがわかりました。那須の優しいイメージを下げないように頑張っていこうと思いました。 木村秀一さん 議員さんの仕事内容を知ることができました。これからはもっと地域について興味を持ち考えたいと思いました。 作間さん 学芸員の仕事や私たちの知らない歴史を知ることができました。これから歴史を伝えていけたらいいなと思いました。 佐々木さん 那須をどう良くしていけばいいのかを考えることができました。これからも那須のことを良くしていきたいです。 渋谷さん 那須町の良いところがわかりました。色々な人に那須町の良さを伝えられるように頑張っていこうと思いました。 砂川さん 印刷の仕事のことがわかりました。経営についての勉強を頑張っていこうと思いました。 高橋さん インタビューが具体的でわかりやすく、これからの進路を決めるにあたり新しい観点で物事を見れるようになりました。 田代さん ゴルフ場の仕事や大変さなど私たちが知らないことを知ることができました。私たちに夢や目標をもってほしいと言っていたので、夢や目標をもって頑張っていこうと思いました。 豊田さん ゲストハウスがどのような場所なのか分かりました。人との出会いを大切にしていきたいと思いました。 濱野さん 社会福祉について、いろいろな話をお聞きすることができました。 平久井さん 那須町の良いところがわかりました。色々な人に那須町の良さを伝えられるように頑張っていこうと思いました。 山下さん 「人生は一度きり。若い時は可能性の塊で、色々な人と仲良くして相談できる人をつくっておく。」など人生の先輩ならではのアドバイスをいただいたので、この言葉を今後の進路に活かします。



将来を
イメージして
高校生活を
送ろう！



自分を
大切にしよう！
未来を
想像しよう！



若い力は
無限大！
なんでも
できる！



やりたいことを
やってみよう！



新しい出会いや
繋がりを大切に
しよう！



あきらめずに
自分の夢を
かなえよう！



那須まち人物図鑑3 編集委員会

編集長 菊池 百恵

副編集長 須藤 箕月

副編集長 佐藤 亜衣

副編集長 石川 優大

似顔絵

新井 悠暉

安藤 唯

石田 恵埜

猪狩 結杏奈

及川 春人

大竹 流音

佐藤 藍莉

相馬 昇弥

相馬 尚弥

高久 悠一

藤森 はのん

益子 琉斗



編集後記

「那須まち人物図鑑3」が完成しました！
私たち編集委員を筆頭に、
生徒主体として制作されました。

編集委員会では、

全員が集合する機会が少なかったですが

それぞれの役割を決め、

協力することを大切に活動しました。

皆で協力し、支え合っていくことで、私たち独自の

「那須まち人物図鑑3」になったと思います。

大変だった反面、嬉しいこと、楽しいこともあり、

やって良かったと思えることがたくさんありました。

地域の方やその他たくさんの方に

手にとっていただける本を作るというのは、

あまり経験できない貴重な機会です。

私たち自身の成長に繋がる、大切な時間になりました。

編集委員に入って良かったと思います。

この本がたくさんの方に手にとっていただけたら幸いです。

ご協力いただいた皆様、

本当にありがとうございました！

那須まち人物図鑑 3

2024年2月29日発行

制作/発行 栃木県立那須高等学校

お問い合わせ 栃木県立那須高等学校

〒329-3215 栃木県那須郡那須町大字寺子乙3932-48

TEL 0287(72)0075

FAX 0287(72)6325

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/nasu/>

写真 那須高校魅力化コーディネーター 佐藤 達夫 (CAZESUN)

デザイン 那須高校魅力化コーディネーター 真柄 奈津子 (CAZESUN)・那須まち人物図鑑3 編集委員会

© Tochigikenritsu Nasu koutougakko all rights reserved.

本誌内容の無断転記・記載・複写を禁じます。



那須高校の二年生が
地域で働く素敵な大人にインタビュー！

仕事のやりがい、若い世代への期待など
いろいろなお話を聞かせていただきました

栃木県立那須高等学校